

# 子どもの居場所と高齢者の居場所づくりを目指して

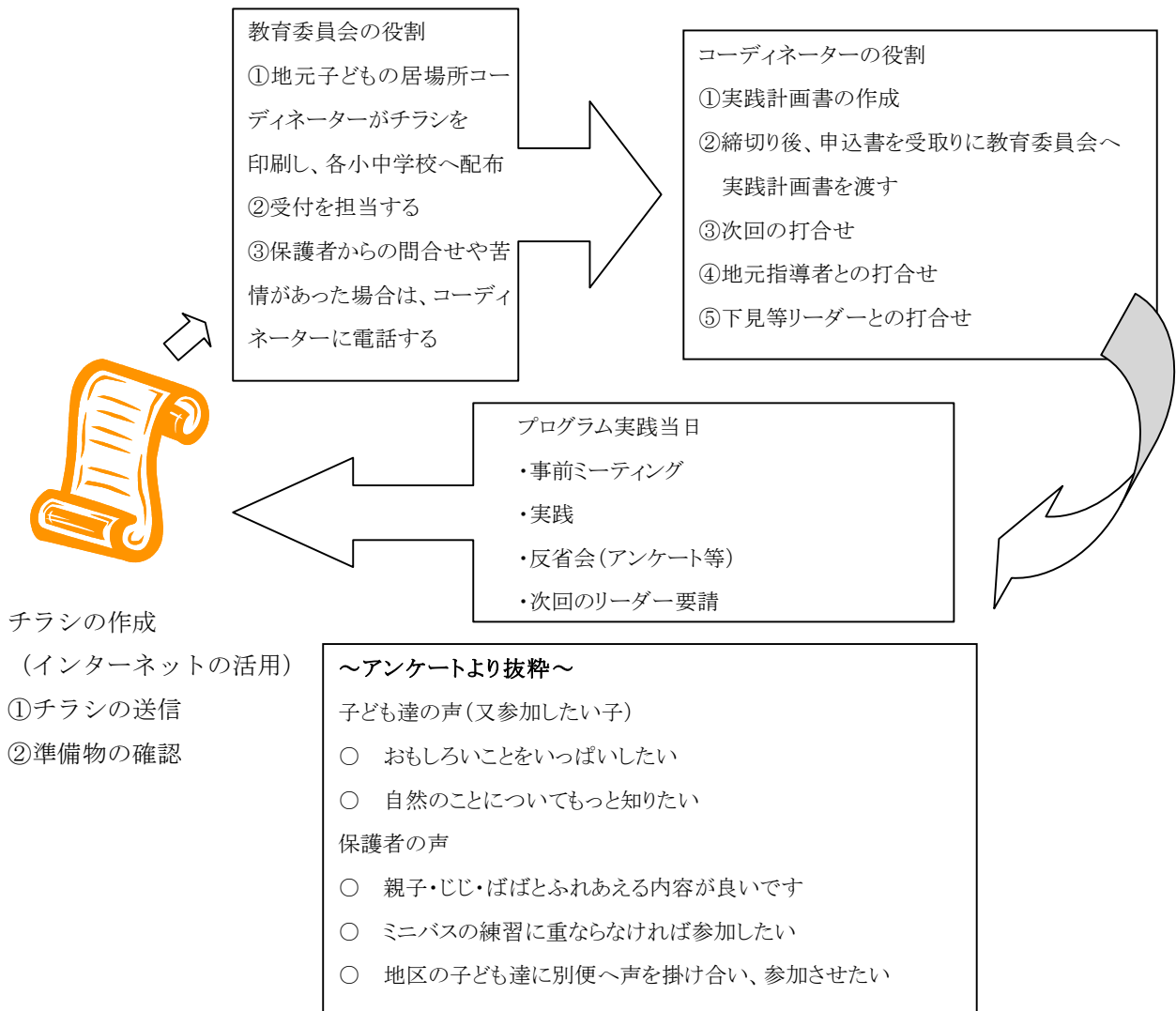
## 「自然と歴史を活かした子ども、高齢者の居場所と

## 環境教育としてのネイチャーゲームの関わり方」

錦川ネイチャーゲームの会 事務局長田中 時子

始まりは、子ども居場所づくり事業でした。16年度は、本郷村山村留学センターを拠点に「昔の遊びとネイチャーゲーム」をテーマに9月から取り組みました。ネイチャーゲーム中心のプログラムから始まり、12月に、「そばうちとあんこ寿司づくり」を企画しました。その時の講師は、地元のおじちゃん、おばちゃんにお願いしました。おばちゃんの一言「わたしのようなのが子どもを教えるようなことはできん・・・。」といわれましたが、教育委員会の社会教育主事の方の協力もあり実施する運びとなり大成功しました。次の年の子どもの居場所でも前半は、ネイチャーゲーム中心の企画で進み、後半から、地元ならではの郷土料理、史跡めぐりと地元の高齢者による指導で企画しました。

教育委員会や学校との交渉、現地の下見、指導員の確保、安全対策などを苦勞し勉強した部分はたくさんありました。受付と地元指導者の紹介は、教育委員会にお願いしました。当日受付・スタッフ・指導員は、会が運営するというシステムは、とても良い方向で展開していったと思います。



毎回、様式426「ネイチャーゲーム プログラム実践企画書」を作成し、教育委員会の社会教育主事の方に事前に渡してどんなことをするのかを知ってもらいました。時々、参加してもらい、体験してもらいました。ネイチャーゲームの理論等を理解してもらいました。その結果本郷村からは、ネイチャーゲームの依頼を2年間継続しています。月1回のペースで開催し、子ども達の楽しみに待って来ています。「今日は、どんなネイチャーゲームをするの」とわたしのそばに駆け寄ってきます。由宇町と美川町も同じ子どもの居場所でネイチャーゲームの依頼を受けて実施しました。

この2年間は、錦川ネイチャーゲームの会としてのあり方について考えるきっかけになり、もちろんリーダーの資質の向上にもなりました。この実績を報告書（協会へ提出したものより別に作成）を作成し、合併前の会と関係する各市町村に配布しました。この報告書を作成しながら、いろんな思いが交差しました。子どもの居場所と高齢者の居場所づくりを一緒にすることで、地域の活性化ができないかと思うようになりました。

地元の高齢者の方と子ども達の居場所づくりを目指して、最終年度はコーディネーターの地元である美和町で実施することにしました。

平成の市町村大合併で本郷村も由宇町も美和町も合併して、岩国市になりました。どの地域も少子高齢化が進む過疎地です。休校も何校もできました。岩国市美和町も9校あった小学校は、昨年2校に統合されました。休校の管理は地元へと移行し、3箇所は取り崩して新しい施設ができました。そのままの状態に残っている学校の中の1校「長谷小学校」が目にとまりました。

鉄筋コンクリートでできたその学校は、地元の方も跡地利用もまだ決めかねている状態です。

交通は、山陽自動車道の岩国インターから20分、広島県大竹市から20分という便利の良い場所です。

周辺には、国土交通省の補助でできた公園が4つ点在しています。その中の公園周辺にこの長谷小学校はあります。

これ以上使用しないまましていると荒廃は、目に見えています。この休校を利用できる方向で地元有力者に相談を持ちかけ、地元グループを立ち上げ、地域の活性化も考えて、どこまで交渉できるかは、未知の状態子ども居場所の企画を日本協会・山口県協会・岩国教育委員会へ提出しました。

前半は、ネイチャーゲーム中心の企画で子ども達を呼び込み、後半は、地元指導員による「自然と歴史」を活かしたプログラムを地元指導者で実践しました。

- 子ども居場所の拠点は、「なごみ公園」  
(水車小屋や炭焼き窯やビオトープがある場所)
- 受付は、岩国市教育委員会美和支所  
(各小中学校へのチラシ配布し受付を担当)
- 影の協力者は、長谷ふるさとづくり連絡協議会



←がんね白滝公園



←農村公園

他に、黒沢スポーツ広場、さざなみ公園  
昆虫公園、森林公園などがあります。





●岩国市子どもネイチャーゲーム教室「しぜんあそび塾」(H18/5月～H19/3月まで実施)



～なごみ広場～



～竹笛とガッツ愛を作ったよ！～



～地元指導者による郷土料理体験～



～休校長谷小学校～

1) その成果としては？

- ① 公園管理組合を中心に「やさか周遊クラブ実行委員会」が発足した。
- ② 全国一斉「ネイチャーゲームの日」と連携して、イベントを支援する。



～岸根栗～



～栗拾い体験～



～食事風景～

10月15日「岸根栗を拾って食べて遊ぼう！」



～受付風景～



～ネイチャーゲーム(遊び)～

実施アクティビティ                      テーマ    —いのちのつながり—

- ①ノーズ    ②私は誰でしょう    ③動物交差点    ④ネイチャーループ

参加者 47人、スタッフ30人（内錦川ネイチャーゲームの会より5人）

2) 協力してくれた行政及び組織団体は？

- ① 岩国市・岩国市教育委員会
- ② 岩国農林事務所
- ③ 財団法人 山口県ひとづくり財団
- ④ 地域支援ネット「かぜ」
- ⑤ 山口県きらめき財団
- ⑥ やかさ周遊クラブ実行委員会

～地元での話し合いの風景～



3) 次年度取り組む企画

- ① 子どもエコクラブ（子どもの居場所）  
休校長谷小学校を拠点として、周辺の公園を活用しながら「自然と歴史」を活かした環境教育に取り組む（ネイチャーゲーム中心）
- ② 地元指導者の育成（高齢者の居場所）
- ③ 行政との協働
- ③ 地元グループが中心となって自然学校の開校。（企画・運営の補助）

4) コーディネーターが行政と協働する上で役に立った資格及び役職

- ① ネイチャーゲームコーディネーター
- ② グリーンツーリズムコーディネーター
- ③ 生涯学習プランナー（山口県）
- ④ 錦川ネイチャーゲームの会事務局長
- ⑤ ミワ遊び塾 塾長
- ⑥ 地域支援ネット「かぜ」事務局長
- ⑦ 岩国市こどもの居場所実行委員会 役員

5) 自然と共生する持続型地域社会の創造に向けて

「子どもの笑顔が大好きで、お年寄りの笑顔に惚れています。」

自然の大切さを一番良く知っているのは、長年自然と関わって農業を培ってきた地元の高齢者です。その高齢者からまだまだ教わってないことがたくさんあります。体験不足の大人に育てられた子ども達が大勢います。それは、都会ばかりではありません。私の住んでいる過疎地も同様です。だからこそ、地元高齢者が子ども達と関わることで元気になって自分の居場所を見つけ、子ども達はいろんな体験を通して心や体を育み「いきる力」を養うことで、自然と共生する持続可能な社会が形成されるのではないのでしょうか。そのつなぎ役を地元のコーディネーターがする。できることから始めました。

子ども関わって15年、地元高齢者と関わって3年。

「大人がかわれば 子どももかわる」この標語の意味がやっとわかるようになりました。地元組織（コミュニティ）の大切さも実感しています。今後、地元組織の育成に力を入れて、子どもと高齢者の居場所を目指して活動を続けていきます。